

北見市における子供を対象としたバス利用促進イベントの開催



芝崎 拓(一般社団法人北海道開発技術センター)、田中 喜人・杉浦 豊(北見市企画財政部地域振興課)、高橋 清(見市北見工業大学社会環境工学科)、大野 悠貴(弘前大学)、正村 英樹(北海道北見バス株式会社)

背景・目的

北見市は平成23年に「北見市地域公共交通計画」を策定し、新たな公共交通システムの導入や特定路線の利用促進等の取組みを実施。

北見市民は、クルマ中心の生活のため、子どもの頃から公共交通に触れる機会が少ない。

子どもを対象とした、公共交通を理解し、肯定的な意識の醸成を目的としたイベントを開催

北見市の概要



面積は1427.41km²で、北海道では第1位、全国で第4位の広さです。また、東西に延びる道路の距離は東京駅から箱根までの距離に相当する約110kmあります。

●人口:121,401人
男/57,659人、女/62,742人
(6,418世帯)

●平均年齢:48.03歳
※平成27年6月30日現在

イベントの概要

■日時:平成26年8月24日(日)

9:00~14:30

■場所:たんの太陽まつり会場

[端野公民館(北見市端野町)]



●案内チラシ(会場配布)



●告知(経済の伝書鳩)8/22日版掲載



●ペーパークラフト(参加者に配布)



●交通シール(参加者に配布)



①交通すごろく

留辺蘂から常呂までバス路線と地域資源を学びながら、「バスとクルマ」の使い方について学ぶことが出来るすごろくを行った。

【体験数】
ゲーム数:15回×5人
全75人



②交通めり絵

北見バスやハイヤー、JR特急オホーツクの図柄で、めりえ台紙を用意し、幼児や低学年の子どもを対象にめりえを行った。

【体験数】
北見バス:14名
JRオホーツク:24名
タクシー:12名 全50名



③交通クイズ大会

北見市のバス路線やハイヤー、JRなどの公共交通に関する〇×クイズを行った。

【体験数】
ステージ数:3ステージ
(9:30/11:30/14:00)
第1回:40名、
第2回:30名、
第3回:60名 全130名



④バス乗り方教室

実際に使用されている路線バス(北見バス)を利用して、乗降車の方法、降車ボタンの押し方、バス運賃の支払い方、ICカードの利用方法、乗車時の注意事項などについて説明を行った。

【体験数】
実施回数5回+個別対応
全110名(親参加も含む)



⑤交通エコロジー教室

公共交通と自家用車(クルマ)のCO2排出量の違いなどについて、交通と環境を考える「交通エコロジー教室」のパネルなどを使用し、実施した。

【体験数】
3回×5名 全15名



⑥なりきり写真撮影

子供サイズのバス乗務員の制服に着替えて、乗務員になりきってバスの前や運転席で記念撮影などを行った。

【体験数】
1時間・平均5名×4時間
全20名



まとめ

- 子供を対象とすることで親も一緒に参加し、全体で400名の“親子”に公共交通の体験プログラムを実施することができた。
- クルマ中心の家族世帯に対して、バスに触れ、親しむきっかけづくりとなったが、バスの利用に繋げるためには一度のイベントのみならず、定期的にコミュニケーションを図り、バスに触れる機会を増やすなどの取組みが必要と考える。

お問合せ:(一社)北海道開発技術センター 芝崎 拓 TEL:011-738-3363 E-Mail:shibazaki@decnet.or.jp

